

JAF エアロビック競技・採点規則 2017-2020

第 3 部「フライト競技」規則の確認事項と補足説明

JAF 審判委員会

1. 「JAF エアロビック競技・採点規則 2017-2020 第 3 部フライト競技 規則」についての確認

● 失格について

- 選手の途中退場は失格(JAFエアロビック競技・採点規則 2018-2020 第3部:「フライト競技」規則に記載)。競技エリアの立ち位置から離れ、再び戻ってきた場合も失格となる。また、試合中にコーチ等が競技エリアに入り、選手の身体に直接触れた場合も失格となる

2. 採点方法に関する確認と補足説明

● 採点基準の再確認

- バウンス 2 点 脚(足・膝)だけの弾みでなく、全身を協調させて弾めているか
- フォーム 2 点 姿勢・腕や脚のポジション・軌道の正確性があるか
- 連続性 2 点 下肢(足・膝・股)だけ、上肢(手、肘、肩)だけで動くのではなく、全身を連動させて動いているか。動きの繋がりがスムーズか
- リズム性 2 点
 1. 動きと音楽(ビート・リズム)が合っている際には、「1.5 点」のイメージ
 2. 更に、緩急差(タメ、抜き)や動きのアクセント(強弱・メリハリ)等を使ってルーティンを豊かに表現出来ていた際には、「2.0 点」のイメージ
- エネルギー 2 点 動作の大きさ、移動距離、持久力(心肺、筋)、エネルギー感な表現
 1. 1 選手につき合計 3 回の審査をした際には、審査した 1 回目、2 回目、3 回目の全てにおいて動きの質が落ちることなく、意欲的なダイナミックな動きや元気な表情でエネルギーが感じられる際に、最後の審査時に「0.5 点」の加点を行い、逆に体力要素の発揮度が落ちたりなど、明らかに動きが変わり採点基準のマイナス要素が最後の審査時に感じられた場合には、「0.5 点」下げる

● 5 項目の各評価要素の得点のイメージ

- 2.0 点 ◎ その項目において、評価要素の出来栄や発揮度が高く、完成度が高い。良さが目立っている(8 割以上の完成度)
- 1.5 点 ○ その項目において、評価要素の出来栄や発揮度はほぼ出来ているが、少し足りない部分もある
- 1.0 点 △ その項目において、評価要素の出来栄や発揮度は出来ていない部分が目立っている(6 割以下の完成度)
- 0.5 点 × その項目において、評価要素の出来栄や発揮度は著しく完成度が低い

● 各評価要素の 5 項目すべてに於いて、「1.5 点(ほぼ出来ている)」の評価を与えた場合には、「7.5 点」となる為、「7.5 点」を基準に考え点数をおく

➤ (例)

7.5 点	—	バウンスがやや劣る (1 点の遂行度)	=	7.0 点
7.5 点	+	フォームの完成度が 高い(2 点の遂行度)	=	8.0 点